

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	例会で理念について話し、理念を軸にケアをしている。玄関に掲示し、職員は声に出して読む。ご利用者やお客様にも見て理解して頂いている。	ホーム独自の理念を作成し、事業所の玄関や事務所への掲示のほか、職員にアンケートをとり、例会の際に理念を実践できるように検討する機会を設けるなど、理念をもとにした意思統一が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年中、散歩を軸に生活している。サロン柄目木に年2回参加。離設されたご利用者を地域の方にも捜して頂いた。職員もご利用者も地域の方と馴染みの関係になれるよう挨拶の励行している。	ご利用者と一緒に地域のサロンに参加しているほか、地域の祭りにも参加しています。また、地域の三味線と民謡の会に参加したり、中学生がホームに職場体験で訪問してくれたり地域との交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加したり、今年は花見見学者の為に駐車場を提供。中学生の職場体験の受け入れをしている。共用型の認知症対応型通所介護事業を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマを設け、学習の機会を得ている。他ホームからのアドバイスも頂いている。第三者からの新鮮な声を大切に、日々のケアに活かしている。ご利用者も参加されている。	2ヶ月に1回開催し、区長・民生委員・包括支援センター職員・他のグループホーム管理者・ご家族などにも参加してもらい、事業所からの報告に加え、地域との交流に関する協力依頼や参加者からの意見が事業所の運営に反映されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内や風見鶏便りを送り、日頃から市町村担当者(生活保護の担当者)と連絡、相談をしている。	地域包括支援センター職員には運営推進会議に出席してもらっているほか、ホーム運営上の相談を通じ、市や区役所・地域包括センターとの関係が構築されています。また、区の地域密着型サービス学習会や圏域の事例検討会にも参加し、運営上の相談を参加者同士で行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束11項目を食堂に掲示し、声に出して読んでいます。具体的な事例をケアの中であげながら理解している。	拘束は行わないという方針のもと、身体拘束11項目を食堂に掲示し、職員も意識しながら業務に取り組んでいます。	調査時点で、すべての時間帯で玄関が施錠されておりましたが、玄関の施錠は夜間のみできるように検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての研修での学びを共有している。職員に伝達講習を行っている。	日々の業務を通じて、話し合いの機会を設けて利用者への対応方法を検討したり、ホームでも職員の言葉遣いで気になる点があれば指導するなど、虐待に繋がる事が見過ごされないようにしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの職員より学ぶ機会を設けている。日常生活自立支援事業についての研修を受け学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約書に前もって目を通して頂き、契約時説明している。改定時等には文書にて説明、同意を得ている。面会時など、気軽に話せる雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族との外出時など、気軽に要望、クレームを言ってくれる関係作りに努め、信頼を得られるように努めている。	毎月1日にご利用者が意見や思いを出していただく会議を実施し、ご利用者の要望を業務に反映できるようにしています。また、ご利用者に聞き取りアンケートも実施し、食事や職員の支援方法について確認の機会を設け、サービスを向上できるように取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に例会や飲み会を企画し、一人ひとりの職員の意見を尊重し、マニュアルの見直しをしている。職員の要望や意見は、リーダーに相談できる体制になっている。	日々の申し送り、毎月の例会にて、職員の意見や提案を吸上げる機会が設けられています。加えて、リーダーが職員の勤務状況を見ながら、職員と個別に話をする機会を設ける等の取り組みも行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ残業をしない方向で、就業環境を整えている。職員同士で話し合いをしている。やむを得ない残業(1時間以上)は報告書を作成。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場主義を徹底。事故の直後立ち合い、検証し、写真を撮り、職員間で共有。気づきのチャンスを多く取り入れている。リスクマネジメント、職員のストレスケアの研修を毎月行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム新津の職員と交換研修をしたり、運営推進会議後に意見交換、外部研修の実践をしている。年3回、秋葉区グループホームの会を開催し、意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所間もないご利用者の不安や混乱を取り除くため、できるだけ1対1で聴いている。電話でこちらから相談しながら、対応をその都度確認、同意を得ている。見学时、自己評価及び外部評価結果を渡している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所理由を明確化し、ご利用者が一番信頼できる人から対応のアドバイスを頂くこともある。申込書に困っている事を記入する欄を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込みを希望されるご家族のお話を伺い、ご本人の意思確認をする中での思いの相違が出てくる場合、生活能力があると判断する場合、他のサービス利用を提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に掲げてあるように、人生の先輩であるという視点から、ご利用者のしたいことを支援している。軽度のご利用者は、職員と同じように動かれている。新聞広告でごみ入れを作る事が日課のご利用者のご家族からの提案で、そのごみ入れを来訪者にお渡ししている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にお願いできることは、お願いする関係を作っている。(外出、外食)ホームでの食事介助、爪切りなど、面会時にご家族と共にやっている。	毎月、居室担当者が体調・健康面に関するお便りをお送りするとともに、管理者もご利用者の様子をまとめたメッセージをお送りするようにしています。また、家族交流会を実施したり、事業所広報も毎月送付しホームでの活動の状況を伝えているほか、何か状況の変化があった時などは、ご家族に電話や手紙で連絡するようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	春、秋の墓参り、馴染みのコーヒーショップ等、ご利用者から行きたい、会いたいをピックアップし、ご家族に相談している。	ご家族にも定期的に面会に来て頂いたり、ご自宅や喫茶店への外出支援も行ってもらっています。また、職員がご利用者の要望を確認し、実家やお墓参りへ出かけるなど馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方の把握、食席を配慮している。散歩も、したい時にしたいだけ、1対1、又は1対2で出掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、風見鶏便りをご家族に送っている。気軽に立ち寄って頂けるように声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「わたしのこと」をまとめ、ご利用者の希望、意向を把握。ついでに会議で司会をお願いすることもある。面会時、ご家族に思いを伝えやすくサポートする。	ご利用者の思いや意向については、毎月のご利用者の会議で確認しているほか、ご家族との面会時にも要望を確認し、介護記録に記入し、職員間でも共有できるようにしています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ケアマネからの情報収集に努め、ご本人からも聴き、ケアに活かしている。「わたしのこと」は、ご利用者と一緒に作る。	アセスメントについては職員にも分かりやすいように、ホーム独自のシートが作成されています。ご本人・ご家族への利用開始時のアセスメントに加え、日々のケアにおいてのコミュニケーションや行動から得た情報の共有もされています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当の意見、他職員からの意見を尊重。日々のバイタル測定、毎月のモニタリングにより現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化には介護計画の見直しを行い、例会で担当職員がご利用者の現状把握をしている。	毎月のモニタリングを踏まえ、ご利用者・ご家族の意向を踏まえ、計画作成担当者や居室担当職員も参加し、サービス担当者会議を行い、定期的な介護計画の見直しが行われています。	調査時点で介護計画が認定期間に合わせた見直しがされていないものもありましたので、認定期間に合わせた見直しをされるように検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケース記録に記入。業務日誌や夜勤日誌に記入し情報共有している。全員が一人ひとりのケアプランを見れるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型の認知症対応型通所介護事業を行っている。外出をご家族が支援。誕生日にはご家族からメッセージを頂き、誕生会に出席して頂く方もいる。地域の専門職(歯科衛生士、僧侶)の方を招き、講習会を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歩いて数分の所に自治会館や神社があり、地域との交流の場になっている。祭り、歌の会、花見などを通じ、地域の方々と触れ合う機会がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問歯科、月2回の往診、市民検診の付き添いを実施。急変時、職員付き添いサービスを行っている。	ホームに往診に来て頂いているほか、ご利用者・ご家族の希望するかかりつけ医との関係を大切にしつつ、職員も受診に付き添い、ご利用者の状態を伝え、医師と情報を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時、看護師と職員が対応している。医療連携の体制で、医師の指示を受け、対応。血糖値の測定、健康チェック、看取り対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカー、看護師から情報を得て、退院の可能性を見極める。入院時にはホームから情報提供書を作成。退院後も病院へ相談し、不安なく安心した生活を取り戻せるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	変化が起きた際は、速やかに対応。医師へ往診依頼。医師の指示に従って毎日の様子をファックスで伝えている。ご家族にできること、できないことを提示し、協力を得ている。看取後はアンケートをお願いしている。	ご利用者・ご家族の要望に応じて医師と相談しながら看取りまで支援するような体制を整えています。また、ご利用者の状況をまとめ毎日FAXでお送りする等の支援もしており、ホームでの看取りに関する指針も作成し、検討の機会を持ち、終末期生活のための誓約書をいただくようになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	市からの広報紙を見て、職員は救命講習を受けている。看護師より応急手当などの指導を受けている。	継続的に消防署の救命救急講習に参加し、職員が適切な初期対応ができるようにしています。また、ご利用者ごとの急変時の対応について、看護師からカンファレンスで指導が行われており、対応方法についてもケース台帳に張られています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。浴槽の水を満たしておく。トイレに懐中電灯を設置。コンロやストーブ、非常用の食料ストック、非常用持ち出し袋を用意している。	年に2回の避難訓練では、夜間を想定した訓練も行われており、訓練には地域の方にも参加して頂いているほか、非常用食品の確保もされていました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は人生の先輩ということを常に考え、言葉遣いには注意している。呼び方も、ご家族やご本人に聞いている。チームケアの中で職員同士評価する機会を設けている。	ホームにて言葉の使い方についての指導も行い、プライバシーに配慮した対応が周知徹底されています。また、広報やホームページの写真の掲載についても、ご利用者個々に同意書を頂いています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	広告を見て、ご利用者の食べたい、見たい、行きたいなどを、さりげなくピックアップし、実現できる所はご家族に連絡し、実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新聞、掲示物、本棚などに刺激を受け、モチベーションを高めるチャンスを作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見て髪をとくす、爪を切る、マニキュアを付ける(好みで)等、清潔保持プラス好みの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前のお誓いで、声を出して食べる意欲をアップ。広報紙の「ごきげんまっすぐ」にご利用者の食事の感想を載せている。検食表にご利用者の感想を記入。	ご利用者にもできる範囲で食事の準備や後片付けを職員とともに行われています。また、ご利用者の要望に合わせて回転寿司に出かけるなど、食事が楽しみになるように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検食表をチェックし、一人ひとり必要な量を把握。医師と家族、看護師と相談している。年に1度、管理栄養士から指導を受けている。職員も介護食アドバイザーの資格を取り、快食を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを拒否される方には、二人対応したり、歯科衛生士、訪問歯科よりアドバイスを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用で、一人ひとりの排泄パターンを知る。トイレの場所を分かりやすく掲示している。	ご利用者全員を対象に、排泄チェック表による排泄パターンの把握を行い、職員間で共有し、トイレ誘導が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯に、食物繊維の多い大麦を入れ、野菜や水分を多く摂って、自然排便を心がけている。嚥下力の弱い方にはゼリーにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表に記入し、入浴拒否した時は、翌日へとつなげている。男性の介助拒否の方もおり、介助は臨機応変に対応している。一人ひとりの希望に応じ、入浴を楽しんで頂けるよう配慮している。夏はハッカスプレー、シャワー浴も実施。	入浴日と入浴時間に関して、体調や希望に応じて柔軟な対応がとられています。また、ゆず風呂やたまねぎ風呂、よもぎ風呂やどくだみ風呂などを実施し、ご利用者に入浴を楽しんで頂けるような工夫もされています。	調査時点で入浴チェック表に記載漏れのある箇所もありましたので、記載漏れが起きないように周知徹底されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に昼寝を薦めている。場所はそれぞれ居心地の良い所を選んで頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「今日は〇月〇日で、〇〇の薬です。」と効き目を伝え、理解して頂いてから服用してもらおう。薬1つ1つに記名。疑問に思った時は看護師や薬剤師からアドバイスをもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前からの楽しみや思いを続けられるように支援している。家族の力を借りて外出へ定期的に行っている。その際、外出ノートに記入。保険証の持参をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事や体調の良い日、時間を考慮し外出している。外出前、バイタル測定し、健康状態を家族に伝えている。全員で外出するのは年1回の交流会時。	日常的な神社・公園などの散歩や買い物への外出のほか、地域のサロンに参加したり、季節に合わせたお花見や町内のお祭りにも出かけています。また、ご利用者の要望に合わせて、回転寿司へ外食に出かける等、戸外に出かけられるよう支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者から買い物の希望を受けた際は、ご家族に連絡し、許可を得たうえで実施している。外出時、ご利用者自身で支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日のプレゼントや贈り物が届くと、お礼の電話を職員が介助し話して頂いている。お礼状を書いてもらったり、年賀状作成支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩時に採ってきた花をご利用者が生けたり、水やりをしている。刺激を受けそうな記事、ニュースを提示してモチベーションを高める。窓を開け、外からの生活の音を楽しむ。音の風景を楽しんでいる。	共有スペースはテレビを囲んでソファーにくつろぎながらゆったりと過ごせるようになっています。食堂も対面式のキッチンでご利用者も食事作りに参加しやすいつくりとなっています。建物も採光が良く入るつくりとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常にご利用者の表情、会話から居心地の良い場所を捜し、支援している。ご利用者の中には居心地の良い場所、一人になれる場所を決めておられる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に相談し、アルバムや使い慣れた品物を持ってきて頂き、配置も本人やご家族で行っている。	カーテンをご利用者自身が選ぶことや、ご利用者の作品を飾るなど取り組みや、使い慣れた物を持ち込んでもらうよう働きかけ、居心地よく過ごせる工夫が行われています。全ての居室が2階にあり、眺めのいい環境が整っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を理解できない時は、分かりやすくイラストで示す。字の読めない方にはイラスト、目が見えない方には音で、耳が聞こえない方にはジェスチャー等、障害に応じ対応、確認している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない